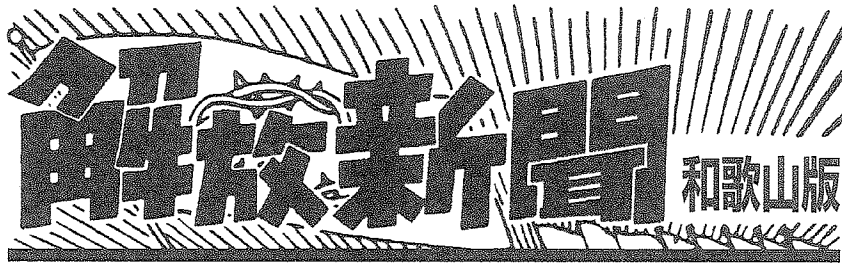


当面のスローガン

- 「人権侵害救済法」制定を!
- 狭山再審闘争勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!

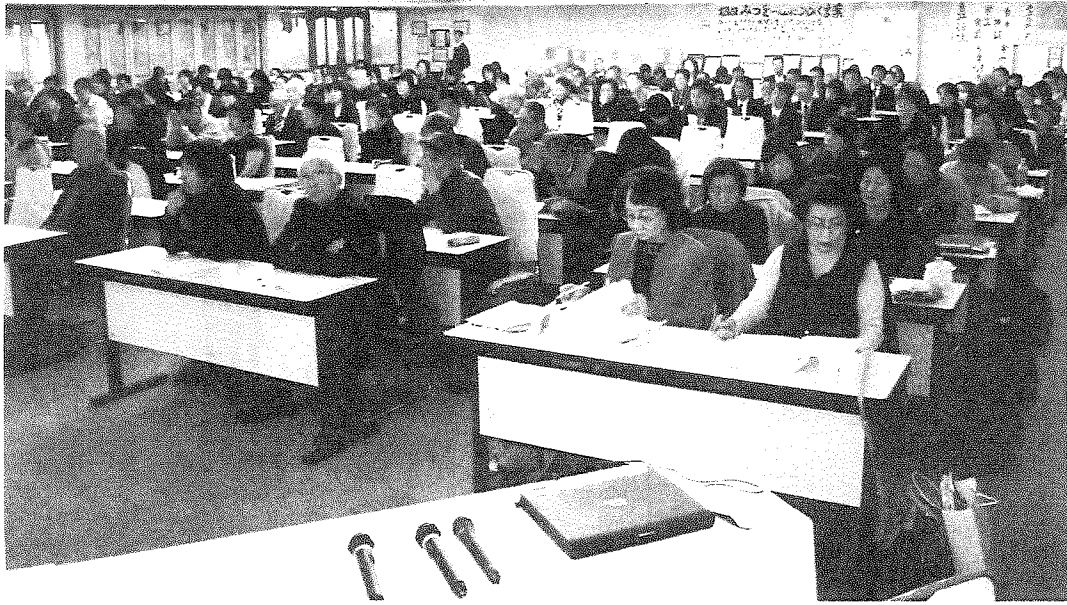


発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
中澤敏浩

多くの参加者がつどった



1日目は、善明寺識字学級生から「猿の村の物語」と題した紙芝居が報告された。紙芝居には、結婚差別を題材に、まちがっていること(差別)をはっきり言える勇気や言い伝え、思い

和歌山県教育委員会が主催する「2011年度よみかき交流」が1月28日、29日、白浜町のホテルシーモアでひらかれた。県内より96人の識字生や行政の職員あわせて156人が参加し、日常生活での工夫などが話し合われた。

よみかきの喜びを

つづいて、実践発表では、細川繁子さん(指導者)から「識字学級をとおして」と題した発表があり、新宮でのとりくみが報告された。



実践発表した
細川繁子さん
(新宮識字学級)

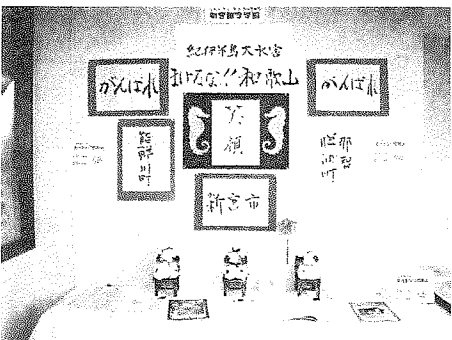
学習資料の見学のあと7つの分散会にわかれ、被差別体験や戦争体験、文字を知らないことで苦労した話、非識字者であること

具体的困った話、識字学級で学んだ内容が日常生活で役立つという話などが語り合われた。また、指導者が集まった第1分散会では、若い世代の不登校によって非識字者が増加している。識字学級で学べる環境作りはないかなどの意見のほか「今さら文字なん



古川正志さんの講演

体験発表のようす
(善明寺識字学級)



学習資料

学習資料

翌日の日程確認の後、恒例のカラオケ大会や踊りが披露された。
2日目は、各分散会で出された意見が分散会の司会者から報告され、まだまだ非識字者を取り残されている実態や夜間中学校への強い期待などが報告された。
最後に「識字の『学び』から明日の識字を考える」と題して、古川正志・前おさか識字・日本語センタ―事務局長から講演があった。非識字生を識字学級に呼び込むための大切なポイントは「私は識字学級に来て、こんなことができるようになった」と自身の経験伝える必要がある。漠然と識字学級に来ませんか?という問いかけでは、非識字者に魅力が伝わらないと語られた。また、識字は人間が学ぶ本当の営みであり、識字生自身が勉強する主人公であると締めくくった。

頑健

最近、我が家に「移動八百屋・開店」というチラシが入っていた。最近、食材だけではなく、物産などのデリバリー業者も増加して、高齢者や共働きの家庭に重宝だ。さて、今「和歌山県長寿プラン」改正案(素案)についてパブリックコメントを募集しているが、気になる部分がある。「買い物、電球交換など、日常生活における、ちよつとしたこと」というところ。県の高齢率が26%を超え、とくに紀南では34%近くにもなっている。また、新興住宅地が多いといわれる地域も、実は30、40年前の新興住宅地である。私も地域の公営住宅に親と一緒に20代のとき入居したが、2年前に還暦を迎えた。高齢者世帯が増加しているのである。町内の八百屋が消え、スーパーができたが、そのスーパーも大型化や集約化で、近所から次々と姿を消している。結果「買い物難民」という言葉ができるほど、全国的にも深刻な事態である。

▼冒頭の話もそうだが、コンビニで移動販売をはじめたという話や買い物バスを出している業者も出てきている。「買い物」は、日常生活の基本の話であり、業者や隣近所の親切素案によるに頼るだけではなく、行政と民間で協働したシステムづくりが是非とも必要で、このことは「防災」や「地域福祉」、社会的セーフティネットに関わる重要な問題だと思ふ。(S・I)